

設 立 昭和 63 年 (1988) 5 月 23 日
事務所 〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋 1-7-3 大丸北炭屋町ビル 6 階
TEL. (06) 6244 -1008 FAX. (06) 6244 -1010
WEB. <http://sembarotary.club> E-mail : semba@cocoa.ocn.ne.jp
例 会 毎週月曜日・12 時 30 分・ホテル日航大阪 Tel. (06) 6244 -1111
会長 岡本 真太郎 幹事 中嶋 啓至 会報広報委員長 坂本 田鶴子



四つのテスト／言行はこれに照してから I. 真実かどうか II. みんなに公平か III. 好意と友情を深めるか IV. みんなの為になるかどうか

第1540回 例会 2024年(令和6年)7月1日

(母子の健康月間)

本日のプログラム

(本日のプログレス 中村 一 SAA)

- ロ-タリ-ソング 「君が代」 「奉仕の理想」
- 会長の時間 ○ 幹事報告 ○ 委員会報告 ○ ニコニコ箱報告 ○ 出席報告
- 7月お誕生月会員お祝い
- 卓 話 岡本 真太郎 会長 中嶋 啓至 幹事
- クラブフォーラム クラブ運営部門 岡野 秀章 委員長
- 新年度会員懇親会 11階「アスターボールルーム」 18:00~20:00
- 理事会 11階「エンパイアボードルーム」 16:00~16:50

前回 (6月17日) 例会記録

◇プログレス 岩崎 寿英 副SAA

1. 来客紹介 坂本 田鶴子 親睦委員

ゲスト: 0名 地区外: 0名 地区内: 4名 合計 4名

2. 会長の時間 「LIFE SHIFT:100年時代の人生戦略」 林 拓 会長



本日は最終例会となります。最後の例会に 1 冊の本をご紹介させて頂ければと思います。これは宮里 P G からご紹介を受けた本で非常に感銘を受けた 1 冊であります。「LIFE SHIFT:100年時代の人生戦略」というタイトルの本です。

人の平均寿命がどんどん高齢化していることはご承知の通りだと思います。本書では 1945 年生まれのジャック、1971 年生まれのジミー、1998 年生まれのジェーン、それぞれの人生をケーススタディのように、仮説での人生展開を説明して行きます。2007 年にアメリカ、カナダ、イタリア、フランスで生まれた子供の 50%は 104 歳まで生きる見通しで、日本に至っては 107 歳まで生きる確率が 50%であります。人が長く生きるようになれば、職業生活に関する考え方も変わらざるをえない。人生が短かった時代は「教育→仕事→引退」という古い3ステージの生き方で問題なかった、

しかし寿命が延びれば、2番目の「仕事」のステージが長くなる。このことにより人生に新しいステージが現れ、マルチステージ化するとしています。

一斉行進のような3ステージライフの終焉です。

100年ライフの時間配分は労働時間を減らし、休暇を増やす可能性が高いとされています。産業革命を境にそれまで1500～2000時間だったイギリスの年間就労時間は1840年には3500時間まで跳ね上がります。イギリスとアメリカでは週70時間労働が当たり前で、19世紀を通して労働時間の短縮が労働運動の目標であり続けました。週休2日と1日8時間労働が標準になったのは、20世紀前半になってからです。1週間をどのように構成するかは時代とともに変わってきました。今後は週休3日、1日11時間労働で80歳定年というような、労働時間に変化してくるかもしれません。

寿命が延びれば、働く時間も長くなり、貯蓄の重要性も高まります。当然、100年ライフにおける資金計画は抜本的に見直す必要があります。しかし100年ライフにはお金に換算できない、見えない「資産」が必要です。仕事で成功し所得を増やすスキルや知識を「生産性資産」、友人や家族との良い関係、精神的、肉体的に健康で幸福である「活力資産」、多様性に富んだ人的ネットワークや新しい経験に対して開かれた姿勢を持つことができる「変身資産」、これらの無形資産は100年ライフにおいて自分の可能性を広げ、新しいシナリオを作り出し、マルチステージに上げてくれる非常に重要なファクターとなってきます。

100年ライフを考えたとき、最も切実な問題は資金計画、しかし無形資産に目を向けると、本当に重要なことが見えてきます。長寿化時代には人生設計と時間の使い方を根本から見直すことで、長寿を厄災ではなく恩恵にすることができるからです。私たちが選択できる人生、シナリオ、ステージはすでに変わり始めています。個人と家庭、企業とキャリア環境、教育機関、政府の政策と変わるべきことも多いですが、重要なのは後から変化を突きつけられるのではなく、いま変化を予期して行動すること。積極的に計画を立てて行動し、自分の状況をもっと直感的に感じ取り、選択肢をよく把握できるようにすることで、長寿を厄災ではなく恩恵として頂きたいと思います。

3. 委員会報告 ◎国際奉仕委員会 澤田 宗久委員

いつも歯科奉仕活動にご理解ご支援頂きありがとうございます。この度は援助金を頂きありがとうございました。

有意義に活用させていただきます。7月6日から15日までバヌアツ共和国のペンテコスト島で歯科医療奉仕活動に行く予定でしたが、バヌアツ共和国の国営航空のバヌアツ航空が倒産しましたので、今年は誠に残念ながらバヌアツへは行けなくなってしまいました。来年は行けるように望んでいます。

フィリピンのカオハガン島での活動は11月に予定していますので皆さまのご理解ご支援のほどよろしくお願い致します。地区青少年交換委員会のお別れ会が15日に開催されました。今年度の留学生は4名でオリエンテーションの後で日本での活動の感想をそれぞれ日本語でスピーチして下さいました。

その後懇親会では、それぞれ留学生のパフォーマンスがあり、ホストファミリーの紹介があり楽しい会になりました。

4. ニコニコ報告 小島 常男 親睦委員

大阪リバーサイドRCライラ実行委員会・・・9月のライラの告知で参りました。ご参加のご検討をよろしくお願いいたします。

林 会員・・・皆様一年間林年度にお付き合い頂き、ありがとうございました。本日にて会長としての全ての職務を終了させていただきます。引き続き次年度も宜しくお願い致します。

山川 会員・・・皆様一年間ご協力をいただき、ありがとうございました。感謝の気持ちを込めてニコニコさせていただきます。

大島 会員・・・前回写真を間違っていました。今週紙面が余ったので再掲載してもらいました。ごめんなさいということでそこそこのニコニコします。

大久保 会員・・・6/13開催されましたジャパンヒッコリーマスターズチャンピオンで優勝しました。優勝者には、10月に開催される世界大会の出場権が与えられるということで頑張ってきました。

甚田 会員・・・①会長幹事さんご苦労様でした。②早退させていただきます。

片岡、中井、野田、伊藤、岡本(真)、松村、俣野、中村、平山、北野、岡野、盆子原、洪、篠藤、清水、竹内、宮原、新川、藤井、中西、小山、井澤、岡本茂、天野、岩崎、小島、坂本、

各会員・・・林会長 山川幹事 一年間お疲れ様でした

5. 出席報告 岩崎 寿英 副SAA

会員総数 38名 出席率計算会員数 36名 出席会員数 34名(オンライン1名) 出席率 94%

第1535回(5月20日) 修正出席率 100 %

6. 卓 話

◎ 林 拓 会長



私は会長になるまで、会長になるということが嫌で、少し憂鬱でした。その当時、国際奉仕のあり方で意見に相違や、またその前には会長職を翌月に控えた会員が体調不良を理由に突然の退会などがありました。そんなことで更に憂鬱になっていました。その感覚を少し変えてくれたのが P E T S でした。そこで延原ガバナナーからのセミナーを受けて R C の基本を学び直しました。次のきっかけは F R でした。私の知らないところで、勝手に実行委員長ということになっていましたが、当時の山川副幹事を中心に委員会が素晴らしい働きをして頂きました。また事前ミーティングで西南 R C の四宮 P G のお話を聞くことができたのも大きな心境の変化をもたらしました。そうして、会長方針卓話がありました。私の年度のテーマは、なにをさせておき「融和」としました。増強も大切なテーマでしたが、まずはクラブの安定を図り、退会を防止し、楽しい例会、楽しい親睦を作り上げ会員皆さまが「融和」を実感できる環境づくりを優先しました。果たして皆さまにそう感じて頂いているかどうかは、分かりませんが私なりのやり方で精いっぱい走り切ったつもりです。

バーベキューにクリスマス例会、新年例会と記憶に残る楽しい思い出は沢山ありました。しかし数あるイベントの中で私が一番記憶に残ったのは、バリ島小学校の衛生回りの支援とシンガポール R C のメンバーとの再会でした。バリ島では岡本会長エレクトの手配で、タマン R C のお手伝いを得ながら小学校への支援ができました。以前にもバリ島には何度か訪れたことはありましたが、会長として訪れるのは全く立場も感覚も違います。子供たちの目がより一層輝いて見えた一日でした。シンガポールでは新潟の棚田でお会いしたマーク王さん始めシューレーン会長やご自宅を提供して頂いた Mohan Vaswani 氏など、楽しい方々と英語や中国語でざっくばらんに、コミュニケーションできたこと、また当クラブのメンバーが 11 人も参加してくださったことは、今後のシンガポール R C との関係を継続していく上で、非常に良い経験になったと思います。やはりロータリークラブは参加することに意味があると思いました。私がもし次年度会長でなかったら、きっと去年、新潟の棚田には参加していなかったと思います。延原ガバナナーもロータリアンは行動人です！と仰いますが本当に、その通りだと実感した一例でした。

本年度は先程お話しした国際奉仕が 2 月にあり、また先般無事に終えることができたロータリーデーが控えていたため、なかなか気を抜けない日々が続きました。このロータリーデーにおいては、船場がどんどん良いチームになってきているように実感していました。そんなチーム船場の中でも片岡実行委員長、中村実行副委員長、には方針や重要事項の決定を引き受けて頂き、また岡野さんには事務方のまとめ役、澤田先生には素晴らしいご講演を、パネルディスカッションでは坂本さんと岩崎さんにはコーディネーター役を、また藤井さん篠藤さんには司会役と前に立ってご活躍頂きました。いろんな方々から良いロータリーデーやったねと言って頂きます。本当に会員全員の皆さま、ご協力を有難うございました。

会長幹事には事務局からだけでもかなりメールが届きます。2023 年 1 月から現在で約 3,000 通のメールが届いております。これに対してなんらかの判断と回答をしていかなければなりません。この判断において私が最大の信頼を傾け、お任せすることができたのが、山川幹事です。皆さまもご存じの通り山川幹事は本来、中村前会長の幹事を引き受けられていた方です。予期せぬ次期会長退会という事態を受けて、期せずして私よりも年配である山川さんが私の幹事をお引き受けてくださることになりました。それまで山川さんとは普通の距離感でしたが、幹事を引き受けてもらってから急速にコミュニケーション頻度が上がりました。今年度が進むにつれ、私にとって山川さんほど安心して幹事をお願いできる人は他にいないと確信しました。予期せぬ突然の退会者もなく、通常通りに進んでいたとしたらここまで山川さんと近くなれるチャンスがあったかと考えますと、これがロータリークラブの面白くもあり楽しいところ、むしろ醍醐味と言っても良いのかもしれません。山川幹事、この 1 年間本当にお世話になりました、有難うございました。任期を終えてもお付き合いの程、宜しくお願い致します。

私が 6 年前に幹事を引き受ける時にも非常にお世話になった中村前年度会長。中村さんは私の 8 歳年上であり、ロータリー歴も私よりも 5 年先輩になります。幹事時代に引き続き、会長時代におきましても常に判断が困難な時に適切なアドバイスをして頂き、

非常に助かりました。中村さんにはいつも、クラブ内で発生することは全て会長幹事の責任ですからね、と教えて頂きました。その責任が果たしていたかどうかは本人としてはなんとも言えません。また小山会員が近年、ガバナー補佐をお引き受けされていたことから、判断の難しい案件は諸々ご意見をお伺いすることができ、当年度会長としましては非常に助かりました。改めてお二人にお礼申し上げます。今年度から執行部も入会年次の若い方々にも多く参加して頂いております。やはり少しでも早く、少しでも多くの方に理事・役員も経験して頂くことが、このクラブをより安定した強固なものにしていくことができると思います。今、振り返りますと私は非常に恵まれた年度に会長を引き受けさせてもらったと感謝しています。冒頭に申し上げた憂鬱で嫌な感情は現在まったくございません。むしろこの1年務めさせて頂いたお陰で、久しぶりに勉強になることも多く、1年前より少しは成長させて頂いた実感があります。人は歳を重ねるごとに傲慢になって勉強を怠り自分を磨くことを忘れていきます。それではダメだよ、と常に自分で自分に問いかける良い1年を過ごさせて頂きました。例えば会長の時間ですが、今年度が始まるまでは40回も何を話せば良いのか、真剣に悩んでいました。小ネタ集の本やサイトも沢山、検索してみましたが、なかなか面白そうなネタは転がっていません。また政治や宗教や新聞ネタはNG、聞いて会員の皆様が気分を害されるような話もNG、今年度が始まるまでは本当に悩みました。まずは月初例会においては、極力月間テーマに沿った内容にしようと考えました。月末はギターで歌う方や映画の話をされる方もいらっしゃいましたが、私は食いしん坊なので、グルメの話をさせて頂くことにしました。そうすると残りは月に1回か2回、あらゆる話題にアンテナを張って話のネタを探していました。毎週、週末の午後に自室の書斎で会長の時間の原稿を書くのが習慣になっていたのですが、この7月以降が少々寂しい気持ちになっています。会長職をさせて頂いてよかったこと、常に「四つのテスト」が頭の片隅に存在していました。「真実かどうか」「みんなに公平か」「好意と友情を深めるか」「みんなのためになるか」クラブのことで何かを判断する時には、いつも意識するようになっていました。そうすると、性急に回答をすることは避けて、まずは頭の中で四つのテストを思い浮かべます。私の場合は特に「みんなに公平か」を意識して判断して回答していました。以前から公平は重視する判断基準でしたが、クラブ会長としては更に注意が必要だと思いました。ですので、できるだけ周りの意見を聞き入れ、一度決めてもう一度一呼吸してから物事を進めてもちょっと良いことを学びました。自分の意見はまずは、横によけて相手の意見を受容することも肝要だと学びました。誘って頂く好意には可能な限りご一緒して、可能なかぎり学びとすること。このようなことから、できるだけ「みんなのためになるか」どうかを判断してから反芻するようにしていました。

中村さんの年度を引き継いで私が会長に就任させて頂くことで、一つの代替わりという解釈をされた会員さまも多かったかと思います。これからは更に年齢も若い、もしくは年次の比較的浅い方も会長になられることもあろうかと思えます。ロータリーに「ノー」という返事はないとよく言われますが、指名委員会で選ばれた皆さま方どうぞ、ノーということなく、会長という役目を楽しんでください。必ずや自分の成長と共に楽しい1年につながると思えます。

1年という短い期間でしたが、本当にありがとうございました。これにて本年度会長としての全ての職務を終了させて頂きます。またこれからも引き続き、どうぞ宜しくお願い致します。

◎ 山川 良知 幹事



1 幹事として皆さんの前でお話しするのはこれが最後です。皆さん、私が1年前の7月の年度初例会の幹事就任の卓話の際に、「憂鬱に思っていることがある」という話しをしたのを覚えておられるでしょうか？

というのは、前年度の中村会長と岡野幹事が、最終卓話で、「替え歌」を披露されました。結構ドタバタされていたところがあり、まるでコントのように感じ楽しませてもらったのですが、まさか、この流れを汲んで、今年度も何か余興的なものをやることになるのではないかと内心不安に思っていたのです。しかし、今年5月のある時に、林会長が、「最終卓話の原稿はもう出来ている」と言われたので、「ああ、普通に卓話すれば良いんだ」とホッとしました。ただ、ホッとし過ぎたのか、原稿の筆が進まず、本日はメモ書きの準備しか出来ておらず、取り留めのない話しになるかも知れませんが、ご容赦いただければと思います。

2 冗談はさておき、この1年間、幹事として特に大きな失敗もなく務めることができましたのは、皆さまのご協力のおかげです。誠にありがとうございました。色々な行事にご出席頂きましたし、アンケートや行事の出欠回答も何度もしつこくさせて頂きましたが、快くご協力いただきました。中でもロータリーデーにつきましては、皆さんが実行委員会メンバーとして一致団結し、見事に成

功に導いて頂きました。

今年度は、同好会設立に始まり、バリ・シンガポール訪問、ロータリーデー等、例年の恒例行事以外にやることが多い一年でした。皆さまから、「幹事大変やね」と、良くお声掛けを頂きました。気に掛けて頂き大変ありがたかったのですが、実は、私自身はあまり大変だとは思っておらず、機嫌よく、ストレスなく幹事を務めさせて頂いておりました。

その理由の一番大きなところは、やはり林会長とのコミュニケーションがうまく取れていたことによると思います。この点については、後で詳しくご説明させていただきます。

理由の二番目は、事務局の田辺さんの存在と、田辺さんとうまく連携が取れたことによると思います。

田辺さんは、長年、事務局として事務を一手に引き受けて来られましたので、クラブの1年間の動きや、地区や他クラブとの連携等、色々なことをご存知であり、幹事をフォローしてくださいました。私が気付いていない部分や、期限近くまで検討を忘れていたときなどにも、フォローして頂きましたので、失敗することなく幹事職を務められたと思います。また、逆に、私から、田辺さんに色々指示したりお願いしたりすることも多かったのですが、快く即座に応じて頂きました。

このように、幹事と事務局との連携は非常に重要なのですが、私の場合、幸いにも、昨年度に小山ガバナナー補佐サポートチームの委員長として、IM5組の会長幹事会(年4回)やフレッシュロータリアンの実施のために、田辺さんと頻繁にやり取りして、連携しながら進めておりましたので、今年度もそのままの流れで切れ目なく頻繁に連絡をとり、連携できたと思います。

このように幹事が事務局に頼るところは極めて大きいのですが、頼り過ぎは良くないと思います。何事も田辺さん任せになると、幹事として全体の把握や個々の重要事項の理解ができなくなりますし、田辺さんもパンクしてしまうかも知れませんので、幹事と事務局との適切な役割分担が必要だと思えます。次年度以降も、事務局との連携と適切な役割分担を、是非ともお願いしたいと思えます。

- 3 さて、林会長とのコミュニケーションの点ですが、私は、元々は中村一会員が会長をされる際に幹事になる予定でした。しかし、昨年度の会長に予定されていた元会員の沖さんが、任期が始まる直前に突然退会されたために、急遽中村会員が1年繰り上げて会長に就任されたことから、林会長の幹事を務めることになりました。それまで、林会長と個人的に特に親しくしていたものではありませんでしたので、若干の不安はありましたが、非常にうまくコミュニケーションを取りながら会長を補佐することが出来たのではないかと思います。

その理由は、昨年1月に何度かお食事をご馳走になりながらお話しする中で、林会長が伊藤会員の下で幹事をされていた際のお話として、基本的には、伊藤会長からは色々な事項について広く任されており、幹事が判断して行うことが多かったこと等をお聞きました。林会長の幹事時代のお話をお聞きして、林会長も同じような幹事像を期待されているのではないかと考え、私も、重要なことは会長に判断して頂くものの、それ以外のことは基本的に私が適宜処理し、事後報告で足りるようにしていくことにいたしました。

また、会長に判断を仰ぎたいことや、私が事務局との間で処理や指示する内容などは、全て会長と事務局を宛先としたメールでやり取りすることによって、常に、会長・幹事・事務局の三者の間でやり取りが見えるようにしたことが良かったと思います。

先ほど、林会長の卓話の中で、この1年間のロータリー関係のメール数が約3000件であり、その大部分は幹事が対応したとのことのお話がありましたが、林会長からは、当初に、「メールは全て目を通してあるから」と言って頂いておりましたので、私の単独での判断や事務局への指示も、問題があれば会長から訂正が入るだろうと、安心して行うことができました。

- 4 話そうと予定していたことが、まだ半分以上残っていますが、余談が過ぎたのか、時間が参りましたので、最後に、1年間幹事を務めて良かったと思うことをお話しさせていただきます。

幹事として色々な行事や委員会に関与させて頂き、対話をさせて頂くことにより、皆さんとの距離が今まで以上に近くなり、仲良くなったことが最大の収穫です。林会長とも仲良くなれました(笑)。

また、当クラブは、地区からも他クラブからも称賛されているところではありますが、高い出席率を誇り、老若男女問わず仲の良いクラブだと思います。次年度以降も、皆さんで協力して、この良い流れを是非継続させていければと思っています。

個人的には、次年度は、少し休憩したいと思っておりますが、もちろん、協力をお願いされた際には応じさせて頂きますし、私から協力をお願いすることもあるかと思えます。今後も引き続き、仲良くして頂きますよう、よろしく願いいたします。

撞木引継ぎ及び会長幹事記念品贈呈



林会長より次年度岡本会長へ撞木が引き継がれた後、
岡本次年度会長より林会長、山川幹事へ記念品が贈呈されました。

大阪 YMCA 国際専門学校との交流会

2024年6月19日(水)

青少年奉仕委員長 篠藤 敦子

6月19日(水)、12名の会員が参加し、大阪YMCA国際専門学校との交流会を実施しました。国際ビジネス学科とホテル学科の学生42名、国籍は日本、韓国、ミャンマー、インドネシア、ネパールなど17か国と国際色豊かな交流会となりました。

最初に船場ロータリークラブ会員の自己紹介を行い、中井会員の発案によるテーマ「これからの仕事に必要なスキルとは～技術革新をもたらす仕事の変化」について、グループディスカッションを行いました。1時間30分を超えるディスカッションの間、各グループでは熱心なやりとりが続けられ、あっという間にディスカッション終了時刻となりました。

その後、各グループの代表学生からディスカッションの内容について、「AIが普及してもコミュニケーションが一番大切」、「技術確認が進んでもそれを扱える人間が必要」、「AIより愛」など、日本語によるしっかりとした発表が行われました。

最後に、船場ロータリークラブ会員から交流会についての感想や学生のみなさんへのエールをお伝えし、和気あいあいとした雰囲気の中、集合写真を撮りました。

大阪YMCA国際専門学校の先生からは、世代や国籍を超えた貴重な交流の体験となったとのことのお言葉をいただいております。参加いただいた会員のみなさま、ありがとうございました。



☆次回7月8日(月)例会予定

・委員会卓話:職業奉仕・社会奉仕・青少年奉仕

※例会場は4階「孔雀の間」に変更になっております。